



学校だより

みどりの

- 考え伝え合う子
- 心豊かな子
- 元気な子
- やりぬく子

令和4年10月3日

壁がプラスになることも

校長 遠藤 昌司

学校では、このところ毎日、校庭や体育館から運動会練習の音が聞こえてきます。演技については、まだ練習が始まったばかりで基本を覚えている段階のようですが、四苦八苦しながらも、たどたどしい動きが日々、さまになってきているように見えます。この時期の心配事になってしまった、長く続く残暑も、今年はそれほど厳しくないのは救いです。運動会当日に向けて、これからも休憩や水分補給には十分に気を付けて熱中症対策をして参ります。大きな音が出ることで、近隣の皆様には、もうしばらくの間ご迷惑をおかけします。

先月、子ども達に配付されたチラシが職員の机上にもあるのを目にしました。10月に大和市文化創造拠点シリウスで「プチロボで競走しよう！大和大会」という催しがあり、その案内でしたが、この事業、20年ほど前に私が立ち上げたもので、その頃のことを思い出し、とても懐かしく思いました。

当時、人事交流で横浜市桜木町にある神奈川県立青少年センターというところに勤務していました。学校とは全く異なる業務となり、戸惑うことの多い毎日であったことに加え、その頃は全館改装に伴うリニューアルオープンの時期であり、新規事業を立ち上げなければなりません。その中の一つが、小学生に向けたロボット関連のものでした。

上司から指示を受け、ゼロから企画しなくてはならず、何をしたらよいか試行錯誤を繰り返していました。何とかロボット工作という形を整え報告したところ、ダメ出しを受けました。様々な条件を踏まえた上であることを説明しても、頑として受け付けてくれず、まさに壁となりました。不満を抱えながらもそこから改めて知恵を絞り直し、やっと行き着いたのが、午前中工作、午後競技会という、走行コースを含めた今でも続くスタイルです。上司からもやっと承認が下り、高く聳えていた壁を、晴れて乗り越えることができました。

今思うのは、上司が壁のままでいてくださり良かったな、ということです。安易な妥協があれば、当時の私の苦労は少なく済んだのでしょうか、ここまで長く続くような催しを思いつくことにはならなかったに違いありません。

子ども達は毎日の学校生活を送る中で、色々な壁に突き当たることもあるでしょう。壁を乗り越えることができれば、その経験は成長につながる良い機会となります。反対に今はまだ乗り越えることが難しい、ということであれば、「三十六計逃げるに如かず」という諺もある通り、上手に避ける知恵を身に付けていく必要があります。そこは「支える当事者」である大人の役割として、しっかりと見極めて助言していかなければと思います。